

国語科学習指導案【知的障害特別支援学級第3学年】

- 1 日 時 令和6年11月1日（金）1校時
- 2 学 年 知的障害特別支援学級 第3学年（1名）
- 3 単元名 登場人物の行動を想像しながら音読しよう
「お手紙」

4 単元の目標

- (1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。〔知識及び技能〕(1) ク
- (2) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

5 単元で取り上げる言語活動

場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像したことが伝わるように音読の工夫をし、発表する。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク)	①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)	①進んで、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、今までの学習を生かして音読をしようとしている。

7 単元について

(1) 児童観

(略)

(2) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 国語編第1年及び第2学年〔知識及び技能〕（「ク語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。」及び「思考力、判断力、表現力等」C読むこと(1)「エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。」に基づいて設定する。

本単元で扱う「お手紙」は、がまくんとかえるくんという二人の登場人物の会話を中心に構成されている物語である。友達の不幸せと一緒に悲しむ、やさしい「かえるくん」と、手紙なんて来ないと思いきや、いじけている「がまくん」の間の心のつながりが描かれている。この二人の友情を描いた物語は、自分の身近な存在である友達を意識し始めた児童にとって、共感しやすい。また、この教材は、会話文で物語のほとんどが書かれているため、会話や言葉に着目して、「何をしたのか、どのような表情・口調・様子だったのか」を具体的にイメージすることや、行動の理由を想像したりするのに適した教材だと言える。

(3) 指導観

①育成したい資質・能力を明確にした単元構成

本単元では、「登場人物の気持ちが伝わるように音読の工夫をし、発表する」という言語活動を設定する。「ふきのとう」で学習したことを想起させ、登場人物の行動を具体的に想像して、様子が伝わるように音読を工夫するという学習の見通しをもたせる。

「語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する」ことに関して、教師やCDの範読を聞いたり、音読の様子をタブレットで録画し、自分の音読を振り返る場を設定したりすることで、語のまとまりなどを理解し、内容理解の伴った音読や間やイントネーション、声のトーン、大きさなどを工夫して音読できるようにする。

次に「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する」ことに関しては、2つの工夫を行う。まず1つ目は、登場人物の行動を具体的に想像することができるように動作化を行う。どうしてそのような動作をしたのかを対話を通して問うことで、叙述を根拠に理由を言わせたり、そのときの登場人物の表情や口調など、具体的に想像したこと表現させたりする。2つ目は、教材文に、登場人物が考えたことを書き込ませたり、挿絵に吹き出しを書かせたりして、登場人物がどうしてそのような行動をしたのかその理由を考えさせる。叙述から考えた表現や動きなどを伝えることを通して、言葉のもつ意味や働きに着目させ、登場人物の行動や様子についての想像を膨らませることができるようにする。

②思考の方法の活用

思考の方法については、【理由】を活用する。「この部分からがまくんのこんな表情を想像したから、こんな読み方をします。」と自分なりの音読の根拠を説明させることで、登場人物の行動から想像したことが相手に伝わるような音読をさせる。

8 単元の指導計画（10 時間扱い）

次	時	学習活動	・指導上の留意点	◇評価規準（評価方法）
【本質的な問い】 ○物語の登場人物の様子を具体的に想像することのよさはなんだろう。 【単元を貫く問い】 ○お手紙をまっているがまくんとかえるくんは、どんなようす（ひょうじょう・くちょうなど）で お手紙をまっているのだろうか。				
一	1 2	・CDによる範読を聞き、登場人物を確認したり、お話の内容の大体を捉えたりする。 ・学習計画を立てる。 ・新出漢字を学習する。	・登場人物の行動やお話の内容の大体を捉えさせるために、挿絵を示す。 ・「登場人物の行動や様子が伝わるように音読する」という見通しをもたせ、学習計画を立てる。	
二	3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 （本時）	・登場人物の行動を具体的に想像する。【理由】 ①がまくんが手紙を待っている場面 ②かえるくんが家に帰った場面 ③かえるくんががまくんの家に戻ってきて、手紙を待つ場面 ④二人で手紙を待つ場面	・会話文に㊸、㊹と書き込みをさせ、主語が確認できるようにする。（役割をはっきりさせる。） ・動作化させ、登場人物の行動を具体的に想像できるようにする。 ・どうしてそのような動作をしたのか本文を根拠に理由を言わせるようにする。 ・児童が気付いた音読の工夫を提示する。	◇〔知・技〕語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（音読） ◇〔思・判・表〕場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（発言・ワークシート）
二	7 ・ 8	⑤手紙が届いた場面 ・P16. 17 の挿絵と P24. 25 の挿絵を比べ、がまくんとかえるくんの表情の変化を読み取る。	・P16. 17 の挿絵と P24. 25 の挿絵の二人の表情に着目させ、表情の変化を考えさせるようにする。	

三	9	- これまでの学習をもとに、音読の練習をする。 - 音読を発表する。	- これまでの学習を生かして、練習をするよう促す。 - 音読を聞いてどのように感じるか、タブレットで撮影したものをしたり、他者からの評価を聞いたりして、自分の音読を振り返られるようにする。	◇〔態〕進んで、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、今までの学習を生かして、登場人物の気持ちが伝わるように音読をしようとしている。(音読)
	10	学習を振り返る。	本単元の目標に即して身に付いたこと、今後の学習や生活の中で生かしていきたいことについて振り返られるようにする。	

9 評価の具体

評価規準 (思・判・表)	「おおむね満足できる」状況（B）
①場面の様子に着目して、 ②登場人物の行動を具体的に想像することができる。	・がまくんやかえるくんの行動に着目し、どうしてそのような行動をしたのか、その時どんな気持ちだったのかを具体的に想像し、間やイントネーション、声のトーン・大きさなどを工夫して音読している。 例) ①ふたりが長い間手紙を待っていたときは、②とても幸せな気持ちだったと思う。それは、①がまくんが「ああ。とても いいお手紙だ。」と言っているし、「ふたりとも、とてもしあわせなきもちで、そこにすわっていました。」と書いてあるから、とても幸せな気持ちなんだと思う。 だから、ぼくは、「ああ。とても いいお手紙だ。」や「まっていた。」は、少しゆっくり、感動したように読むよ。②がまくんは、はじめてお手紙をもらってとても嬉しくて感動したんだと思う。それに、かえるくんも、がまくんがすごく喜んでくれたから嬉しかったんだと思うな。ぼくも、友達からふわふわ郵便をもらったら嬉しいし感動するから、その気持ちが伝わるように読みたい。

国語科学習指導案【知的障害特別支援学級第5学年】

- 1 日 時 令和6年11月1日(金) 1校時
- 2 学 年 知的障害特別支援学級 第5学年(1名)
- 3 単元名 ポップで紹介しよう これがわたしのおすすめ本
本は友達「本のポップや帯を作ろう」「だれだか わかるかい? むしのかお」

4 単元の目標

- (1) 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。
〔知識及び技能〕(3)オ
- (2) 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ
- (3) 登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

5 単元で取り上げる言語活動

自分の読書生活を振り返り、友達に読んでほしい「おすすめ本」をポップで紹介する。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。 (3)オ	① 「読むこと」において、中心となる語や文を見付けて要約している。 (C(1)ウ) ② 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 (C(1)エ)	① 積極的に読書に親しみ、今までの学習を生かしながら、進んでポップ作りに取り組んでいる。

7 単元について

(1) 児童観

(略)

(2) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 国語編第3学年及び第4学年〔知識及び技能〕(3)「オ 幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。」及び〔思考力、判断力、表現力等〕C「読むこと(1)「ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。」「エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。」に基づいて設定する。

本単元では、ポップや帯を作って紹介する活動を設定している。ポップや帯などで本のよさを紹介することで、児童の感じ方や考え方を他者に伝えることができる単元である。また、本単元で取り上げる「だれだか わかるかい? むしのかお」は、教科用図書に掲載の「神様の階段」の筆者が書いたノンフィクション作品である。「だれだか わかるかい? むしのかお」では、児童の好きな虫の写真がたくさん紹介されており、虫の顔をアップで撮られた写真とそれを説明する文章は、児童に新鮮な驚きを与え、今まで気付かなかった虫の生態について興味・関心をもち、読書の幅を広げるのに適した作品である。これまでの読書生活を見直し、読書教材を例に様々なジャンルやテーマへと読み広げたり、読書活動を通して本との関わりを深めたりしていくことに適した教材である。

(3) 指導観

①育成したい資質・能力を明確にした単元構成

本単元では、「友達に読んでもらいたい本をポップで紹介する」という言語活動を設定する。過去に作られたポップを紹介し、単元ゴールのポップのイメージをもたせる。また、作ったポップを掲示し、単元全体の振り返りを行う。その際、他者からの評価をしてもらうことで、自己肯定感を高め、次の活動への意欲につなげていく。

「幅広く読書に親しむこと」に関しては、児童が意欲をもって読書できるように本のテーマを「昆虫」に絞り、児童の好きな昆虫に関係する本を学級文庫に置く。その際、児童の読書の幅を広げるために、絵本、科学読み物（ノンフィクション）、物語など多数のジャンルの本を、学校司書と連携して学級文庫に置くようにする。

「中心となる語や文を見付けて要約したり、登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像したりすること」に関しては、本を読んで心に残った言葉や文を問い、「なぜその言葉や文を選んだのか」を対話を通して、具体的に想像させていく。また、ポップを作るにあたっては、中心となる語や文、心に残った文を引用したり、キャッチコピーを考えたりするなど、読む相手に自分の紹介したい本のよさがよく伝わるような文で表現するようにさせる。

②思考の方法の活用

思考の方法については、【つなげる】を活用する。友達に読んでもらいたい本のポップを作成させるため、本に書かれている複数の内容を結び付けて、筆者が伝えたいメッセージを考え、それをキャッチコピーとして伝えていけるように支援する。これまでの読書生活の振り返りを行い、自分が読みたい本や友達に紹介したい本を選ばせ、どんな構成でポップを作ったらいいのか考えさせ、ポップの例を参考にして、タブレットを使って作成させる。

8 単元の指導計画（6時間扱い）

次	時	学習活動	・指導上の留意点	◇評価規準（評価方法）
【本質的な問い】 ○本とは自分にとって何か。本とどのように付き合っていくか。 【単元を貫く問い】 ○どうすれば読んでもらいたい本をみんなに紹介できるのだろうか。				
一	1	・ポップについて知り、単元の見通しをもつ。	・単元ゴールのポップのイメージをもたせるために、過去に作られたポップを紹介する。	
	2・3	・読書生活を振り返る。 ・「だれだか わかるかい？ むしのかお」を読み、ノンフィクション作品のよさについて考える。	・本の読み方について、教科書の「読書にしたしむために」で確認する。 ・「だれだか わかるかい？ むしのかお」を読み、この本のよさについて考えさせるために、虫の顔をアップで撮られた写真とそれを説明する文章を提示する。	◇〔思・判・表〕中心となる語や文を見付けて要約している。 （発言・ノート）
	4・	・読みたい本を選んで読み、友達に紹介したい本を選んで、ポップ作りをする。【つなげる】	・ポップの参考例を示し、ポップの書き方や書く内容について考えさせるようにする。	◇〔思・判・表〕登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 （発言・ノート・作品）

二	5 (本時)		・ポップには、その本のよさが伝わるように書くように助言する。 ・低学年にも本のよさが伝わるように、相手意識をもってポップが作れるように助言する。	◇〔態〕積極的に読書に親しみ、今までの学習を生かしながら、進んでポップ作りに取り組んでいる。(発言・作品)
三	6	・作ったポップを掲示する。 ・単元全体を振り返る。	・自分が紹介したい本のよさが伝わったかを振り返らせるために、他者からの評価を行う。 ・次に読んでみたい本について考えられるように、学級文庫に様々なジャンルの本を置く。	◇〔知・技〕読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(発言・ノート)

9 評価の具体

評価規準 (思・判・表)	「おおむね満足できる」状況 (B)
①中心となる語や文を見付けて要約している。 ②登場人物の気持ちの変化を③場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。	ポップに、選んだ作品の魅力を伝えるための語や文を見付けて要約し、書いている。 例) B児 「とべバッタ」 田島征三 ①あるひ、バッタはけついた。 ②おそろしいものたちからにげよう。 ③バッタは、しにものぐらいでとんだ。 バッタは むちゅうで はねをばたつかせた。 ④バッタは、自分の力で飛べることがうれしくてうれしくてしかたなかったんだよ。

10 学習の流れ（6 時間目／全 10 時間）

(1) 本時のねらい

二人で手紙を待つがまくんとかえるくんの行動を具体的に想像できる。

(2) 本時の展開

・指導上の留意点 ◇評価規準（方法）	学習活動
・本時の活動の見通しをもたせるために、学習の流れを掲示する。 ・本文の叙述をかくにんするために、CD による範読を聴く。	1. 前時までの学習を振り返る。 2. 本時の課題をつかむ。 ふたりは、なぜ長い間手紙をまっていたのだろう。
・がまくんの具体的な行動について考えられるようにするために、指導者と役割読みをし、がまくんのセリフの音読の仕方を工夫させ、「どうしてそのような音読をしたのか。」理由を問う。 ・手紙の内容を知っているにも関わらず、お手紙を待つがまくんやがまくんと一緒にお手紙を待つことにしたかえるくんが、なぜお手紙を長い間まっていたのかを考えさせるために、指導者との対話を行う。	3. がまくんの気持ちの変化をがまくんの行動から想像する。 ・役割読み ・音読の工夫の確認 4. ふたりが手紙を長い間待っていた理由を想像する。
<本時で扱う思考の方法> 【理由】 手立て：なぜ長い間手紙を待つことにしたのかを、叙述を基に想像させるために、指導者との対話を行う。 「『ふたりとも、とてもしあわせなきもちで、そこにすわっていました。』と書いてあるから、二人とも幸せだから手紙を待っていたんだと思う。ぼくも、ふわふわ言葉ゆうびんを友達からもらったら嬉しいし、手紙をくれた友達に『ありがとう。』と言ったら、その友達も喜んでくれたよ。だから手紙をもらうがまくんも、手紙を出したかえるくんも嬉しくて、幸せなんだと思う。」	

10 学習の流れ（5 時間目／全 6 時間）

(1) 本時のねらい

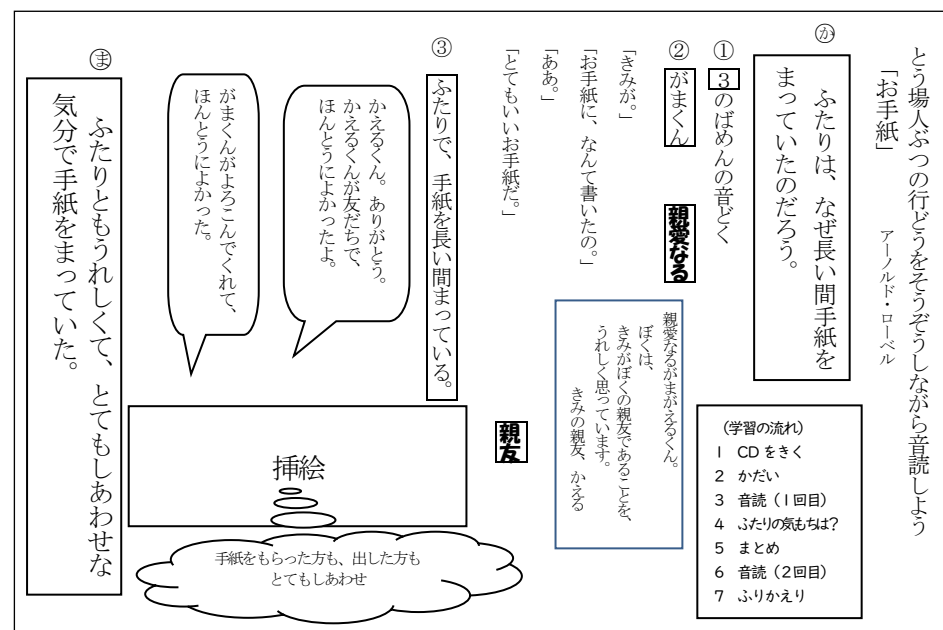
選んだ本のよさを紹介するために、ポップに書く内容を考えて書くことができる。

(2) 本時の展開

学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準（方法）
1. 前時までの学習を振り返り、本時の学習の流れを確認する。 2. 本時の課題をつかむ。 ポップにどのようなことを書くと、本のよさが伝わるのだろう。	・本時の活動の見通しをもたせるために、学習の流れを掲示する。
3. タブレットを使って、画像を貼り付けたり、紹介文をローマ字入力したりする。	・心に残った場面や叙述を想起できるように、「本の紹介シート」を読み返すように助言する。 ・自分のおすすめ本のよさが読み手に伝わるポップにするため、ポップの参考例を参考にし、タブレットを使って作成するように助言する。 ・画像の貼り付けの仕方は、生活単元の時間を通して習得させておく。
<本時で扱う思考の方法> 【つなげる】 手立て：「ポップを見た人が読みたくなるようなポップを作る」という意識をもたせ、本のよさが伝わる構成や紹介文を考えさせるために、ポップの参考例を提示したり、助言したりする。 「『むしさん なんのぎょうれつ?』という本を紹介したい。この本には、たくさんの虫が出てくるから、みんなにたくさんの虫を知ってもらいたい。だから、『一体、何匹の虫が出てくるかな?』と書こう。」	
	◇〔思・判・表〕登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（発言・作品）

・二人が手紙を待っている理由を想像して、二人の話したことを考え、吹き出しに書くように助言する。 ◇〔思・判・表〕場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(ワークシート) ※本時は、指導に生かす評価に留める。	5. 本時のまとめをする。		4. 作ったポップを紹介する。	・作ったポップを友達に紹介し、評価してもらったことから、「低学年にも本のよさが伝わるように、相手意識をもってポップを作るために大切だと思うことは何か」を考えるように助言する。
ふたりともうれしくて、とてもしあわせな気分で手紙をまっていた。	6. 学習したことを生かして音読する。 7. 学習を振り返る。		5. 本時のまとめをする。 本のよさを伝えるためには、心に残った文を書いたり、話の内容を書いたり、選んだ本のおもしろさや感想などを書いたりするといひ。	
・5年に音読を聞いてもらい、評価してもらう。 ・学習したことを生かし、登場人物の行動や気持ちが伝わるように、言葉の響きなどに気を付けて音読するように助言する。			6. 学習を振り返る。	

11 板書計画



11 板書計画

